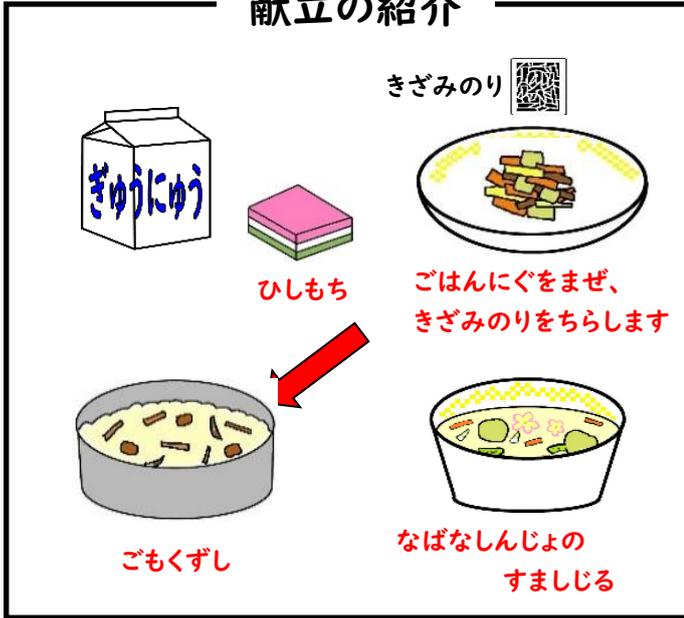


がつ か か ぎょう じ しょく もも せっ く こんだて
3月3日(火)は、「行事食 桃の節句献立」です

こんだて しょうかい
献立の紹介



3月3日の「桃の節句」は、「ひなまつり」とも呼ばれ、子どもの健やかな成長を願う行事です。

「ひな人形」や「桃の花」をかざり、「ひしもち」や「ひなあられ」などをお供えます。また、「ちらしずし」や「はまぐりのお吸い物」を食べる風習があります。

桃の咲く季節なので「桃の節句」と呼ばれる「ひなまつり」は、平安時代から行われている古くから伝わる行事です。3月3日に定まったのは室町時代で、江戸時代ごろから、各地に広まったといわれています。

いわ
ひなまつりのお祝いにそろえるもの

にんぎょう
ひな人形



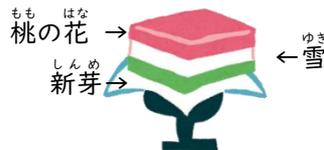
ひな人形が女の子の健やかな成長と、災い除けなどの身代わりになり、厄を受けてくれるといわれています。

もも はな
桃の花



桃の花は、中国由来の「桃の節句」において、長寿や魔除けの力がある神聖な木として飾られます。

ひしもち



桃色は桃の花の「魔除け」、白色は雪の積もった大地の「清らかさ」、緑色は新芽の「生命のエネルギー」を意味し、雪の下に新芽が芽吹き、桃の花が咲いている様子を表しています。

ひなあられ



ももとは、ひしもちを砕いて作っていました。女の子の成長を祝い、一年の健康を願っていただくお菓子です。西日本は丸くてしょっぱく、東日本はお米の形で甘いのが特徴です。